

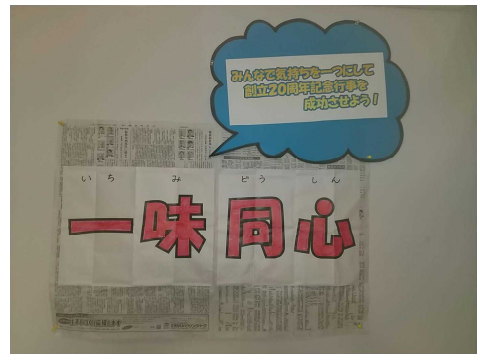
一年の終わりに

校長 伊藤 登美子

今年は記録的な暖冬でしたが、修了式を迎えた今頃になって雪が降り続けています。

先日7日に5年ぶりに卒業生、保護者、在校生に加え、来賓の皆様にも参列していただき、卒業式を挙行することができました。小学部7名、中学部9名、高等部22名の卒業生は、とても堂々と誇らしげな表情で卒業証書を手にしていきました。凛とした眼差しの卒業生に証書を渡しながら、それぞれの3年間、6年間、12年間の思いがその姿に表れていることを感じました。本当に卒業おめでとうございます。天王みどり学園で過ごしたかけがえのない日々を大切にして、新しい場所で力を発揮してほしいと心から願います。在校生の皆さんも、新しい学年に進級します。一つ上の学年になって、さらに力を付けていってください。

今年度は創立20周年を迎え、子どもたちが主体となって、創立20周年記念音楽会や記念品製作など様々な事業を展開してきました。私は折に触れ、子どもたちに「一味同心」という言葉を用いながら、校長としての思いを伝えてきました。一味同心というのは、心を一つにして力を合わせる、心を同じにして協力し合うという意味です。「ワンピース」の麦わらの一味のように、一人一人がみどりの一味として自分の役割に全力で取り組み、創立20周年記念行事を成功させてほしいと子どもたちや職員にお願いしました。子どもたちは見事にその願いに応え、「風をうたおう」という素敵な創立20周年記念曲を作って合唱・群読したり、式典アトラクションで見事な司会進行や和太鼓演奏を披露したりしてくれました。



また、今年度は秋田県障害者技能競技大会の木工、ビルクリーニング、喫茶サービスの3部門で、出場した生徒が金賞受賞という快挙を成し遂げ、全国大会に出場するという活躍が見られました。まさに創立20周年記念事業のテーマに掲げた「輝く未来へ はばたけみどりっこ」を予感させる、子どもたちの無限の可能性を感じた1年でした。

これらの子どもたちの活躍は、これまで積み重ねてきた本校の二十年間の伝統と家族や地域の方々の変わらぬ応援があってこそと思います。支えてくださったすべての皆様に感謝申し上げます。

令和6年度のさらなる活躍に期待をこめて。